

総合科目「瀬戸内海の環境と生物」の内容

現代ボランティア論

本講義は、総合科学部坪田教授が停年の平成四年度まで開講されていた「瀬戸内海の文化と自然」を再編成し、平成七年度より開講した。以前は一年を通じて自然科学に加え、社会・人文科学分野も含めた内容であったが、現行では前期のみで自然科学的な内容である。

世界的な課題である「自然環境維持」と、ヒトを含めた生物との関わりのもも基礎的な点を身近な瀬戸内海を例にとり、学生の海に対する認識を深めるのが講義の目的である。環境を蝕みながらも自然と調和をとりながら生きて行かねばならない。

しかし、我々はあまりにも海に対して無知であったがゆえに、文明という便利さの代償として、「自然」という大切な魂を悪魔に売り払った犠牲はあまりにも大きい。

講義は、総合科学部、工学部、教育学部、生物生産学部、理学部、学校教育学部の教官十二名で担当している。内容は以下のとおり。

1. 海とのふれあい（水辺生態系の保全、野外活動、磯の生物、魚介類と食生活）
2. 環境（漁村の生活、環境の評価、

3. 多様な生物（動物、植物、鳥しよ部の生態系、生物資源）

「海」について難解な講義をするのが目的ではなく、初めての「海」の講義に出会い、なにかの印象がすり込みとして頭に残っていれば成功であろう。反響をみて、野外活動も加え年間を通じた講義になればと思っている。

生物生産学部

中川平介（なががわ・へいすけ）



総合科学部

ボランティアは実践である。口先だけでどんな偉そうなことを言っても、「じゃ、あなた何しとるん」と問われれば口ごもらざるを得ない。ボランティアに関わることは、実は自分自身を不利な立場にさらすことになる。だから、今でもときおりためらいながら現代ボランティア論を責任担当している。つまり、「おのれはボランティア論を担当するに値する人間たるや」と自問しつつ、毎回の講師の先生方のお話が終わった後、聴講生各人の印象記に一枚一枚眼を通すのが楽しみである。優等生的な文章が多いのが気になるが、それでも講師の先生のお話を、素直に感動して聴いている姿が眼に浮かんでくるような文章にふれるときは、さすがに「やっぱり、やってよかったな」と喜びがふれてくる。

現在、一六〇名ほどが毎回定期的に聴講している。八割が一年生である。将来の職業選択を反映してか、三分の二が教育学部と学校教育学部の学生である。

講師の先生方のお話の内容は、実社会、実生活にかかわるような話題が多いだけに、聴く方も熱心に聞いている雰囲気がある。インターネットを使って、ボランティアで創った東広島市のホームページを見せていただいたのも大きな反響があった。

生涯学習審議会は四月二十四日に、「地域における生涯学習の充実方策について」の答申を提出し、社会に開かれた高等教育機関として大学におけるボランティア活動の育成、その有効利用を指摘している。

統合移転を果たした今、広島大学が地域に根ざし、地域に支援される高等教育機関として育っていくためには、さまざまなボランティア活動を通して、市民、学生、大学職員とのネットワークを育てていくことが大切であろう。そして、この総合科目がその一粒の種になってくれれば、これにまさる喜びはない。

総合科学部自然環境研究コース
日下部眞一（くさかべ・しんいち）